

■平成 23 年 10 月 16 日、毎年恒例の「成逸総合防災訓練」を実施し、今年は343名の方に参加していただきました。

今年の防災訓練も平成 20 年度作成の成逸避難所マニュアルの流れに沿った形で実施しました。

まず、町内で決められた「地域の集合場所」に町内単位で集合し、避難者や負傷者の数、家屋の倒壊、火災発生件数などを確認、および福祉防災地図や町籍簿などをもとに、各戸の安否確認を行いました。その後、町内会メンバーが揃って避難所である北総合校へと避難していただきました。

避難所に到着後、避難報告書を本部に報告し、避難人員と被害状況を集計しました。今回は 343 名の方が避難されました。その後、避難訓練を実施しました。

今年の避難訓練は救出活動訓練として「ジャッキアップの訓練」、救護活動訓練として「AED の紹介、心肺蘇生法の学習」、それから「避難所設置訓練」を行いました。また、今年は「炊き出し訓練」としてアルファ米づくりと配分に取り組みました。

また、最後に毎年実施のアンケートをに協力いただき、207 人の方から回答を頂きました。このアンケートやご意見を踏まえ、今後の成逸学区の防災の取組みに活かしていきたいと思ひます。

今年は東北大震災、台風 12 号、15 号により、全国各地で大災害が発生し、災害時の避難のあり方、避難所問題、帰宅困難者の問題など、大災害が身近な問題として、みなさんに記憶されました。あらためて、日常のおつきあいの中での「絆」の大切さを実感しました。

成逸学区では安心安全なまちを目指して、自主的な防災への取組みを継続して実施しています。今回の防災訓練の経験と成果を活かし、さらに「みんなが支えあうまち」「私のまちに町内会があってよかったと思えるまち」を目指して、継続的な取組みを展開して行きます。多くの方が関心を持っていただき、家族や近所の人にも声をかけていただき、取組みの輪を広げていきたいと思ひます。

●防災訓練の様子



ジャッキアップの訓練



心肺蘇生法の訓練



炊き出しの訓練

◆平成 23 年度成逸総合防災訓練アンケート結果の報告

- 「成逸総合防災訓練」の参加者を対象に「防災訓練に関するアンケート調査」を実施しましたところ、207 名の方から回答を頂きました。その結果概要を報告します。
- 防災訓練アンケート調査は平成 20 年から実施していますが、その変化についても整理します。

【1】参加者およびアンケート回答者の概要

- ・ 訓練参加者数 343 名、アンケート回答者は 207 名です。
- ・ 平成 20 年からアンケート回答者数は以下の通りです。
- ・ 回答者の年齢別では 60 才以上の方が 58%で、高齢者の方の参加率が高い傾向が伺えます。

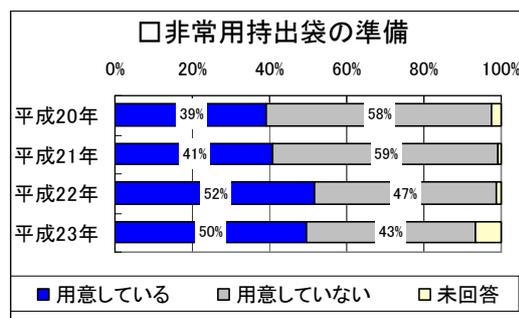
	回答者数	回答者の性別	回答数	比率
平成20年	148	男性	95	46%
平成21年	128	女性	110	53%
平成22年	232	未回答	2	1%
平成23年	207	計	207	100%

回答者の年代	回答数	比率
10才代	1	0%
20才代	3	1%
30才代	19	9%
40才代	23	11%
50才代	33	16%
60才代	63	30%
70才代	48	23%
80才代	11	5%
未回答	6	3%
計	207	100%

【2】非常用持出袋を用意していますか。

- ・ 半数の方が用意されています。
- ・ 非常用持出袋を用意している方は増加傾向ですが、平成 22、23 年とも 50%をやや超える程度です。

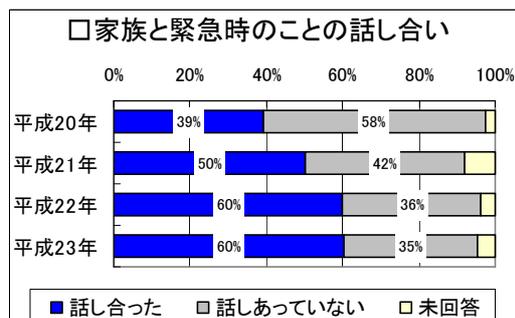
選択肢	回答者数	比率
用意している	103	50%
用意していない	90	43%
未回答	14	7%
計	207	100%



【3】家族との緊急時のことの話し合いをしているか

- ・ 6割の方が話し合っていると回答。
- ・ 平成 20 年から徐々に話し合っている比率は高まっています。

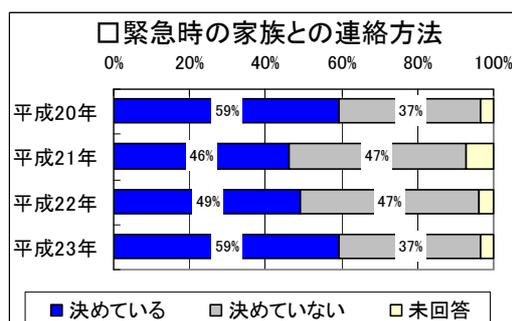
選択肢	回答者数	比率
話し合った	125	60%
話し合っていない	72	35%
未回答	10	5%
計	207	100%



【4】緊急時の家族との連絡方法を決めているか

- ・ 6割の方が緊急時の連絡方法を決めていると回答。
- ・ 東北大震災や台風 15 号での帰宅困難者発生の情報からでしょうか、今年度は高い比率となっています。

選択肢	回答者数	比率
決めている	123	59%
決めていない	77	37%
未回答	7	3%
計	207	100%



【5】成逸避難所運営マニュアルを記載したニュースを保管されていますか。

- ・成逸避難所運営マニュアルは平成 20 年に作成し、その概要版をまちづくりニュースで全戸に配布しました。
- ・マニュアルについて 37%の方が今も保管していただいています。41%の方は保管していない、16%の方はマニュアルの存在を知りません。
- ・このマニュアルは住民主体で作成されたものであり、住民のみなさんのさらなる理解が期待されます。

選択肢	回答者数	比率
マニュアルを保管している	77	37%
マニュアルは見たが保管していない	84	41%
マニュアルを知らない	34	16%
未回答	12	6%
計	207	100%

【6】災害発生時の避難行動について

- ・災害発生時の避難においては、「家族で地域避難所に集合して近所の人との安否確認を行い、近所の人と一緒に避難所に移動する。」ことが基本です。
- ・災害発生時にはできるだけ近所の方と一緒に行動することが大切です。日頃からの近所づきあいを大切にしてください。

選択肢	回答者数	比率
家族だけで避難	16	8%
家族で避難場所に集合してから避難所に移動	60	29%
家族で避難場所に集合して近所の方の安否確認を行い、近所の人と一緒に避難所に移動	124	60%
未回答	7	3%
計	207	100%

【7】「避難勧告」と「避難指示」の違いがわかりますか？

- ・今秋は台風 12 号、15 号の直撃を受け、各地で「避難勧告」と「避難指示」が発令されました。しかし、その違いが理解される方が少なく、各地で混乱をきたしました。
- ・アンケートにおいてその違いを認識されていない結果が出ています。「避難勧告」と「避難指示」の違いなど、緊急時にどのように対応するか、日頃からの学習が必要です。

避難勧告とは	回答者数	比率
避難の準備を開始	59	29%
○避難を始める	52	25%
直ちに避難	71	34%
わからない	13	6%
未回答	12	6%
計	207	100%

(参考)「避難勧告と避難指示のちがい」について (出典：宮津市避難マニュアルから引用)

避難準備	気象情報などから、河川の氾濫等のおそれがあるとき、警戒の呼びかけと自主避難所の開設を広報します。余裕をもって適切な避難行動がとれるよう備えてください。
避難勧告	避難を促すもので、「人的被害の発生する可能性が高まったとき」に発令します。隣近所で助け合って <u>速やかに</u> 避難所へ避難してください。
避難指示	避難勧告より拘束力が強く、「人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断したとき」、また「災害が発生したとき」に発令します。 <u>直ちに</u> 避難所に避難してください。

【8】今回の防災訓練に参加しての感想・意見の概要

①訓練を体験して	<ul style="list-style-type: none"> ・炊き出しに参加したが概ねの段取りがわかってよかった。 ・AED の使い方がわかった。 ・体育館の狭さを感じた。実際ここで生活は無理だと感じた。
②訓練の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強・参考になった。 ・聞いているのと実際では随分違いました。体験できてよかった。 ・とても勉強になった。時々復習も必要と実感した。 ・同じ事の繰り返しですが非常時に役立つ。 ・訓練することにしたことではないが実践できるか不安です
③訓練の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・良い経験だが、人数が多いのでなかなか全部やることは難しい ・少し時間かかりすぎた。 ・初めての訓練で段取りが悪かった。 ・漠然としてわかりにくかった。

【9】今後の防災訓練の意見の概要

①防災訓練の意義について	・ 去年も参加しましたが、毎年する訓練と、新しいものと、色々ためしてみるのも大変ですが、一度でも経験するという事は大切な事だと思います。 ・ 地域の団結力を高めるような防災訓練が必要だと思います。
②参加人数を増やしたい	・ 若い世代のもっと積極的な参加が必要。 ・ もう少し大勢の人が体験できるような配慮が必要。
③訓練の継続	・ 各町内組長も率先して協力する。 ・ 今回以上に実際的なことも学んで練習したいです。
④訓練の内容について	・ もっとリアルな訓練をしたい。 ・ 時間や移動など少しわかりやすい進行を期待する。

【10】今後の防災関連の取組について意見

①参加促進に向けて	・ 自治会に入っていない人はどうなのかと不安もあります。 ・ 若い人の参加・研修が必要だと思います。各家庭での備えや準備が大切である事を浸透させないといけないと思います。
②今後の努力	・ 各町とも70歳以上の方が多いため、常時責任者を決めて各町各組ごと連絡をとりあって準備体制を気にかけたい。
③情報提供	・ 備品がどこにあって誰が鍵を持っているか知らない人がほとんどかと思うので何か情報があるといい。

◆まちづくりアドバイザーからの提案 —まちづくりアドバイザー 石本 幸良

私は平成12年から成逸住民福祉協議会の活動に参加、平成19年には成逸まちづくり推進委員会を立ち上げ、以降はまちづくりアドバイザーとして活動に参加してきました。

平成20年の成逸学区避難所運営マニュアル作成をお手伝いし、その年の成逸総合防災訓練から参加させて頂きました。今年度は体調不良で出席できませんでしたが、アンケート集計のお手伝いをさせて頂く中で、改めて成逸のみなさんの防災訓練に対する意識の高さに驚嘆しました。

この4年間の防災訓練を通して感じたことをお伝えし、今後の取組への提案をさせていただきます。

- ① 町内会加入世帯の4世帯に1世帯の参加で非常に高い自主参加率です。
 - － 他学区のデータがないので比較はしにくいですが、どの学区でも動員をかけても参加者が少ないとの意見も聞かれ、25%の参加率は非常に高い参加率です。
- ② 60才以上の高齢者の参加率が高いのが特徴です。
 - － 恒例行事として定着しており、高齢者は毎年参加することで防災意識を維持しておられます。
 - ・ 高齢者にとって、防災訓練への参加は楽しいまちのイベントであり、併せて互いに安否を確認する絶好の機会となっていると思われます。
- ③ 参加者が固定化傾向で、緊急時に対する準備度はあまり変化していない傾向が見られます。
 - － 防災訓練等への参加率は非常に高いですが、各家庭の地震対策の取組はあまり上昇しておらず、自主防衛への一層の取組が必要と言えます。

以上のような分析を踏まえて、以下のような提案をさせていただきます。

(提案1) 高齢者を支える防災のまち「成逸」のPR

(提案2) 訓練への参加率向上を目指して「防災訓練」のイベント性の向上

(提案3) 「成逸防災への手引き(案)」の発行

成逸学区が防災を大切にすまちとして今後とも発展されることを願っています。

成逸自主防災会では今回の訓練の成果についての分析を行い、さらに効果的な防災訓練の計画と実施を企画してまいりますので、今後とも、多くの方の参加と協力をお願いします。

■発行 成逸まちづくり推進委員会 成逸自主防災会
■協力 京・まち・ねっと 石本